

# **横須賀市まちづくり評価委員会報告書(暫定版)**

---

## **(平成 25 年度)**

平成 25 年（2013 年）8 月

横須賀市まちづくり評価委員会

## 報告書の記述内容について

○横須賀市基本計画では、計画期間に特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力（都市の魅力）の向上を目的として5つの「重点プログラム」を位置付けている。

○本報告書は、基本計画重点プログラム市民アンケート（平成 25 年 4 ～ 5 月）の結果や、重点プロジェクトの目標と重点事業の実施状況などをもとに、まちづくり評価委員会の委員で議論された内容を、各プログラムに対する「（１）現在の状況に対する実感」「（２）今後の取り組みの方向性に対する意見など」に分類し、まとめたものである。

○報告書内の記述における市民アンケートの結果は、「基本計画重点プログラム市民アンケート（平成 25 年 4 ～ 5 月）」の結果を指す。また、表については、記述に係る調査結果を抜粋して掲載している。

○アンケートでは設問に対する回答者の傾向を観察するため、「DI」（ディフュージョンインデックス 景気動向指数 / 拡散指数）の考え方を利用している。

プラスの回答ポイント － マイナスの回答ポイント ＝ DI として記述している。

DI とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。  
マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。

・現在の状況 「①思う」＋「② やや思う」

・以前との比較 「①よくなっている」＋「②どちらかというよくなっている」

⇒プラスの回答ポイント

・現在の状況 「④ あまり思わない」＋「⑤思わない」

・以前との比較 「④どちらかという悪くなっている」＋「⑤悪くなっている」

⇒マイナスの回答ポイント

・DI がプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある

・DI がマイナス … アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

## 目 次

|                                            |           |
|--------------------------------------------|-----------|
| <b>1 平成 25 年度横須賀市まちづくり評価委員会総括</b> .....    | <b>1</b>  |
| <b>2 重点プログラム1「新しい芽を育む」</b> .....           | <b>3</b>  |
| ー子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成ー            |           |
| <b>3 重点プログラム2「命を守る」</b> .....              | <b>13</b> |
| ー誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくりー                |           |
| <b>4 重点プログラム3「環境を守る」</b> .....             | <b>21</b> |
| ー人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくりー            |           |
| <b>5 重点プログラム4「にぎわいを生む」</b> .....           | <b>27</b> |
| ー地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくりー       |           |
| <b>6 重点プログラム5「地域力を育む」</b> .....            | <b>35</b> |
| ー地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化ー  |           |
| <b>7 「持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)」について</b> ..... | <b>41</b> |
| <b>8 重点政策・施策評価に関する意見など</b> .....           | <b>42</b> |

### (参考資料)

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| 基本計画および重点プログラムについて .....               | 43 |
| 重点政策・施策評価の枠組み（横須賀市まちづくり評価委員会の役割） ..... | 45 |
| 横須賀市まちづくり評価委員会委員名簿 .....               | 46 |
| 平成 25 年度 横須賀市まちづくり評価委員会開催状況 .....      | 47 |
| まちづくり評価委員会条例 .....                     | 48 |

## 平成 25 年度 横須賀市まちづくり評価委員会 総括

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

平成 25 年（2013 年）8 月  
横須賀市まちづくり評価委員会

## プログラム1『新しい芽を育む』

### 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

#### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果で、実感が得られてきている状況だが、理由の一つとして、子どもを育てる環境や利便性がよくなっている、周りの人が子どもに優しくなっているという印象があるのではないかと思う。子どもが少ないこともあるのだろうが、幼稚園等の送迎バスが住宅近くまで走っていたりする。
- 近年の傾向として、地域のコミュニティ活動が活発になり、地域と、子どもや家族との距離も近くなってきている。若い世代を育てるという自治会活動が盛んになり、「子ども見守り隊」などは当たり前になってきている。
- 市の子育てなどに関する計画等が煮詰まり、今は実施段階になっていることも後押ししているように感じる。
- 「子どもを産み育てやすい」という非常に漠然とした大きなテーマだが、どのような時に育てやすい、よいと感じるのだろうか。一般的な子どもたちは、地域と色々なかたちで交わることができることかもしれないし、課題のある子どもたちは、相談機関や関係施設などの情報がわかるということかもしれない。
- そのような目にはみえない「よさ」を掘り起こせるかどうか。子育て環境がよいといっても、個々にとって本当によいかどうかという難しさがあり、全ての人にとってよくなっている訳ではないと感じる。
- 課題のある子どもは特別支援学級・学校に通うことが多いが、彼らが、将来に向かってすくすくと育っているということを本当に実感できているのかどうか。今の環境（状況）がよいのかどうか疑問もある。
- 重点事業の「こんにちは赤ちゃん事業」は、とても評価できる内容だと思うし、実際、出産した母親たちから「助かる」との声も聞いている。また、虐待が疑われそうな家庭の早期発見にもつながると思う。

- 外国籍の母親とのコミュニケーションに課題があると思う。外国籍の母親の場合、健康診断の通知などを送付しても、意思の疎通が図られず、検診に出かけない母親もいる。母国語での文書などを作成しているようだが、外国籍の方との共生はとても重要である。

表 1－I 「子どもを産み育てやすいまちづくり」の状況

【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |      |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 540   | 41.3             | 28.9           | 29.8                   | 11.5          | 5.6  | 9.5      |
| 24年度 | 589   | 39.9             | 26.1           | 34.0                   | 5.9           | 3.9  |          |
| 23年度 | 597   | 38.2             | 25.6           | 36.2                   | 2.0           | —    |          |

【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |      |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わっ<br>ていない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 434   | 41.0                                 | 41.2         | 17.7                                 | 23.3          | 5.5  | 9.2      |
| 24年度 | 497   | 37.7                                 | 42.5         | 19.9                                 | 17.8          | 3.7  |          |
| 23年度 | 524   | 37.6                                 | 38.9         | 23.5                                 | 14.1          | —    |          |

- 年齢別の傾向として、30 歳代の実感が得られているのは、他都市からの転入者が多い世代であるため、横浜市など転入以前の居住地と比較して、横須賀は自然環境が豊かで子育てしやすいと感じているからではないか。
- また、市の取り組みや社会福祉協議会などで、子育てを支えていく色々なネットワークが構築され、急速に広がっている。
- 例えば、「わいわい広場」(出張親子サロン) などには、私たちが想像している以上に多くの人が参加しており、参加することが当たり前となっている。若い世代には、子育てを支えてもらっているという意識があるのではないか。
- ママ友など、母親の様々なグループ等に入っている人は情報を入手しやすく、行政側の発信力がなくても情報を入手して、口コミで情報を共有する。そのような方にアンケートがいくと、「市も頑張っている」と評価が上がっているかもしれない。
- 一方、そのようなグループに入れない人々、転入者などは情報の入手力が乏しく、アンケートの回答理由でも、「発信力がない」「学校の対応が悪い」などが挙がってくる。そのような人たちへの情報提供にも気配りが必要なのではないか。
- 50 歳代の実感が得られていないのは、40～50 歳代は長く横須賀に住み続けていて、横須賀の自然などは現状が当たり前となっており、プラスに評価され難いのではないか。

表 1－Ⅱ 「子どもを産み育てやすいまちづくり」の年齢別状況

## 【現在について】

| 年齢階層  | 調査年度 | 件数(人) |                  |            |                        |               |        | (ポイント)   |  |
|-------|------|-------|------------------|------------|------------------------|---------------|--------|----------|--|
|       |      |       | ①思う＋②やや思う<br>(a) | ③どちらともいえない | ④あまり思わない＋<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)－(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |  |
| 29歳以下 | 25年度 | 57    | 49.1             | 22.8       | 28.1                   | 21.0          | ▲ 0.6  | 18.1     |  |
|       | 24年度 | 74    | 48.6             | 24.3       | 27.0                   | 21.6          | 18.7   |          |  |
|       | 23年度 | 69    | 34.8             | 33.3       | 31.9                   | 2.9           | —      |          |  |
| 30歳代  | 25年度 | 69    | 46.4             | 23.2       | 30.4                   | 16.0          | 43.8   | 12.5     |  |
|       | 24年度 | 72    | 26.4             | 19.4       | 54.2                   | ▲ 27.8        | ▲ 31.3 |          |  |
|       | 23年度 | 86    | 39.5             | 24.4       | 36.0                   | 3.5           | —      |          |  |
| 40歳代  | 25年度 | 71    | 38.0             | 28.2       | 33.8                   | 4.2           | 14.0   | 15.4     |  |
|       | 24年度 | 92    | 29.3             | 31.5       | 39.1                   | ▲ 9.8         | 1.4    |          |  |
|       | 23年度 | 90    | 34.4             | 20.0       | 45.6                   | ▲ 11.2        | —      |          |  |
| 50歳代  | 25年度 | 97    | 35.1             | 28.9       | 36.1                   | ▲ 1.0         | ▲ 17.2 | 0.8      |  |
|       | 24年度 | 105   | 45.7             | 24.8       | 29.5                   | 16.2          | 18.0   |          |  |
|       | 23年度 | 109   | 35.8             | 26.6       | 37.6                   | ▲ 1.8         | —      |          |  |
| 60歳代  | 25年度 | 131   | 37.4             | 33.6       | 29.0                   | 8.4           | ▲ 13.3 | 3.1      |  |
|       | 24年度 | 115   | 47.8             | 26.1       | 26.1                   | 21.7          | 16.4   |          |  |
|       | 23年度 | 113   | 42.5             | 20.4       | 37.2                   | 5.3           | —      |          |  |
| 70歳以上 | 25年度 | 100   | 47.0             | 31.0       | 22.0                   | 25.0          | 18.7   | 15.9     |  |
|       | 24年度 | 112   | 39.3             | 27.7       | 33.0                   | 6.3           | ▲ 2.8  |          |  |
|       | 23年度 | 120   | 40.8             | 27.5       | 31.7                   | 9.1           | —      |          |  |

## 【以前との比較】

| 年齢階層  | 調査年度 | 件数(人) |                                      |          |                                      |               |        | (ポイント)   |  |
|-------|------|-------|--------------------------------------|----------|--------------------------------------|---------------|--------|----------|--|
|       |      |       | ①よくなっている＋<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わっていない | ④どちらかという<br>悪くなっている＋<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)－(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |  |
| 29歳以下 | 25年度 | 35    | 48.6                                 | 37.1     | 14.3                                 | 34.3          | 10.4   | ▲ 2.7    |  |
|       | 24年度 | 46    | 41.3                                 | 41.3     | 17.4                                 | 23.9          | ▲ 13.1 |          |  |
|       | 23年度 | 46    | 50.0                                 | 37.0     | 13.0                                 | 37.0          | —      |          |  |
| 30歳代  | 25年度 | 48    | 41.7                                 | 45.8     | 12.5                                 | 29.2          | 27.3   | 15.7     |  |
|       | 24年度 | 53    | 26.4                                 | 49.1     | 24.5                                 | 1.9           | ▲ 11.6 |          |  |
|       | 23年度 | 74    | 33.8                                 | 45.9     | 20.3                                 | 13.5          | —      |          |  |
| 40歳代  | 25年度 | 56    | 35.7                                 | 39.3     | 25.0                                 | 10.7          | ▲ 7.7  | 2.2      |  |
|       | 24年度 | 76    | 35.5                                 | 47.4     | 17.1                                 | 18.4          | 9.9    |          |  |
|       | 23年度 | 82    | 35.4                                 | 37.8     | 26.9                                 | 8.5           | —      |          |  |
| 50歳代  | 25年度 | 82    | 39.0                                 | 46.3     | 14.6                                 | 24.4          | 10.1   | 28.4     |  |
|       | 24年度 | 91    | 36.3                                 | 41.8     | 22.0                                 | 14.3          | 18.3   |          |  |
|       | 23年度 | 100   | 29.0                                 | 38.0     | 33.0                                 | ▲ 4.0         | —      |          |  |
| 60歳代  | 25年度 | 117   | 39.3                                 | 41.0     | 19.7                                 | 19.6          | ▲ 5.6  | 7.3      |  |
|       | 24年度 | 107   | 41.1                                 | 43.0     | 15.9                                 | 25.2          | 12.9   |          |  |
|       | 23年度 | 105   | 39.0                                 | 34.3     | 26.7                                 | 12.3          | —      |          |  |
| 70歳以上 | 25年度 | 85    | 47.1                                 | 36.5     | 16.5                                 | 30.6          | 9.1    | 4.0      |  |
|       | 24年度 | 107   | 41.1                                 | 39.3     | 19.6                                 | 21.5          | ▲ 5.1  |          |  |
|       | 23年度 | 109   | 43.1                                 | 40.4     | 16.5                                 | 26.6          | —      |          |  |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 子どもたちだけで遊んでいる姿をなかなかみかけない。若い世代が多いと、子供会などで、集まって遊び、顔がみえて仲間もできる。地域の活動の取り組みが大事だと思う。
- 以前、西地域の産院の有無などの話があったが、市民病院でも充足してきている。助産制度を地域でとり入れるなどの活動をしているので、その辺りも小まめにケアすれば、市民に実態を理解してもらえるのではないだろうか。地域の様々なことを活性化させれば住みやすいまちになっていくと感じる。
- 昨年の評価結果報告書の中で「重点プロジェクトの推進状況」(参考資料3 p11) が記載されているが、市民にとっては、事業を並べられても、実感がない、難しい、よくわからないというのが実情かと思う。「すかりぶ」等もあるが、インターネットを通じて、施策の内容に関して細かくわかりやすく伝えていけば、よりよくなるのではないだろうか。
- 一般的に、役所のホームページには事業等が掲載されているが、市民の目からは何のことだかよくわからないことがある。事業名とその説明が載せられていても、具体的に何が行われていて、自分の生活にどれが関わってくるのか判断がつかない。
- 役所は基本的に申請主義なので、その申請を行う人や、行政が取り組んでいることを知っている人がみれば想像がつくのだろうが、ただホームページをみるだけでは掴めないことが多いのではないか。
- 例えば、「わいわい広場」(前出 p 4) も、名称を聞くだけでは何のことだかわからない。似たような名称のものも多い中で、それが具体的にこのような内容で、子育てをしている人が参加して楽しむ場であるということが、情報に上手に辿りつけた人にはわかるかもしれないが、肝心の情報までアクセスできない人も多いのではないか。
- YES / NOチャートのように、子育てや就職など、懸案事項やニーズごとの情報提供ができるとわかりやすいかもしれない。
- 重点プロジェクトの目標値で、例えば「保育所待機児童数」は目標 9 人となっている。横浜市は待機児童 0 人とメディアで取り上げられて、強いメッセージになって、パブリシティ効果があったと思う。この目標を実際に達成するのは非常に大変なことではあるが、横須賀も 0 人を目指す、などと発信していくと広域に PR できると思う。

- 子どもを産み育てるということは、ワーク・ライフ・バランスの観点から、横須賀に限らず、今後、ニーズがより高まるだろう。アンケート結果で実感が大幅に上昇してはいるが、関連施策のPRをさらに行っていく必要があると感じる。
- 今は、企業も、採用などにおいてワーク・ライフ・バランスをどのように考えていくかを重要視しているようだ。アンケートで若年層の実感が得られているのであれば、ワーク・ライフ・バランスというキーワードから施策を推し進めていくことも重要だと感じる。
- 「子どもを産み育てやすい」と聞くと、私たちは、つい、幼児から小学生までをみてしまいがちであるが、本当の最終目標はその子どもが納税者になるということだと思う。生活保護を受けざるを得ない人など、今は、それが難しい時代になってきている。
- 障害などの課題のある子どもたちが、それぞれの特徴を生かして、納税者になれるということを非常に大事にしたい。例えば、自閉症の方は一つのことに非常にしっかり取り組めるので、京急グループの京急ウィズ（特例子会社）などでは、クリーニングの仕事などに従事している。
- 「最終的に税金を払える人になれるような子どもを育てていく」ということに照準を合わせて取り組んでいければ、日本の少子化をくい止める最後の砦になるかもしれない。
- 子育てにおいては、幼稚園入園時、小学校入学時、小学校4、5年生という3つの壁があるという。その3つの壁に対してどのような施策を打ち出していけばよいかということを、アンケートから探れるとよいと思う。
- 「自然が豊か」などは横須賀の強みだと思うが、アンケートで横須賀ならではのものを評価している人が非常に多いこと、施策や事業のよい点を挙げている意見もあることがポイントかと思う。それらが今後取り組んでいかなければいけないところになるのだろう。
- 「学童」も非常に需要が高いし、「米軍基地の環境を生かして語学に力を入れた方がよい」など、アンケートの回答理由に具体的なヒントがたくさんあると感じる。取り組んでいることをもっとアピールして、それを評価してもらうようにすると非常によいアンケートになるのではないかな。
- 重点事業の「保育所定員拡充事業」について、定員を増やすだけではなく、それぞれの保護者からきめ細かにニーズを聞くことで、保育所だけではない「子どもを預ける選択肢」が見つかるかもしれない。

- フルタイムで働く保護者にとって保育所は一番必要とされる保育施設であるが、パートタイムで働く保護者にとっては保育所以外の選択肢もある。ニーズに応じて解決策を見つけられれば、待機児童は減るのではないかな。
- ファミリー・サポート・センターの保育「よろしく会員」「おまかせ会員」など各団体での取り組みの情報も合わせて紹介し、保育を必要としている子育て世代に提供してはどうか。保育所の増員以外の方法で待機児童を減らすことができるかもしれない。横浜市の取り組みの「保育コンシェルジュ」のようなものが求められるかもしれない。

## 1-2 人間性豊かな子どもの育成

### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果で、実感が得られている状況だが、回答理由で「国際コミュニケーション能力育成」や「ALT」に関するものが見受けられる。昨年、横須賀ならではの教育が必要という話があったが、やはり外国籍の方が多いので国際化は必要になるかと思う。保護者も望んでいる。
- 学校では、5、6年生は年間に35時間、4年生以下は10時間の授業がある。以前と比較をすると、母語を英語とするALTが学校に配置され定着してきている。子どもたちが物怖じすることなくALTとコミュニケーションがとれている。小学校は、生きた英語に慣れながらコミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。徐々に効果がみえてきていると思う。
- 横須賀の子どもたちは、外国人に対してアレルギーがなく、とても身近に感じる事ができている理由の一つだと思う。同じ地域で外国籍の方と共に暮らすことも理由の一つだと思うが、それ以上に、学校でのALTとのふれあいが他市都府県よりも多いことも、横須賀の子どもが外国人とのコミュニケーションを普通のものと考えている理由に挙げられると思う。
- ブックスタートは母親たちに評価されている。小学校でボランティアが、朝、「読み聞かせ」を開催しているが、子どもたちの聞く姿勢、理解力に影響を与えていると思う。子どもが本に興味を持ち、読書を身近に感じる手段、きっかけになっていると思う。ボランティアに対しての養成講座もありたいと聞いている。

表1-III 「人間性豊かな子どもの育成」の状況

#### 【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |      |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 489   | 39.7             | 30.3           | 30.1                   | 9.6           | 9.9  | 11.5     |
| 24年度 | 554   | 34.5             | 30.7           | 34.8                   | ▲ 0.3         | 1.6  |          |
| 23年度 | 555   | 31.4             | 35.3           | 33.3                   | ▲ 1.9         | —    |          |

#### 【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |       |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 406   | 39.2                                 | 49.3         | 11.6                                 | 27.6          | ▲ 0.4 | 6.1      |
| 24年度 | 444   | 40.1                                 | 47.7         | 12.1                                 | 28.0          | 6.5   |          |
| 23年度 | 476   | 35.3                                 | 50.8         | 13.8                                 | 21.5          | —     |          |

- アンケート結果で、30～40 歳代の実感が弱いのは、30 歳代は子育てに非常に悩んでいる世代なので、自分の現状を鑑みて、人間性豊かな子どもの育成はなかなか難しいという実感があるからではないか。
- 70 歳以上の実感が得られているのは、年齢が上がるに連れて子育てが自分に関係することではなくなり、「人間性豊かな子どもを育てます」というようなフレーズ等を回覧や広報で目にする中で、そういう取り組みをしてくれているのだな、というプラスの印象をもっているからではないか。

表 1－Ⅳ 「人間性豊かな子どもの育成」の年齢別状況

【現在について】

| 年齢階層  | 調査年度 | 件数(人) |                  |            |                        |               |        | (ポイント)   |  |
|-------|------|-------|------------------|------------|------------------------|---------------|--------|----------|--|
|       |      |       | ①思う＋②やや思う<br>(a) | ③どちらともいえない | ④あまり思わない＋<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |  |
| 29歳以下 | 25年度 | 57    | 43.9             | 22.8       | 33.3                   | 10.6          | 7.6    | 22.0     |  |
|       | 24年度 | 67    | 37.3             | 28.4       | 34.3                   | 3.0           | 14.4   |          |  |
|       | 23年度 | 61    | 27.9             | 32.8       | 39.3                   | ▲ 11.4        | —      |          |  |
| 30歳代  | 25年度 | 65    | 35.4             | 30.8       | 33.8                   | 1.6           | 32.2   | ▲ 11.1   |  |
|       | 24年度 | 62    | 24.2             | 21.0       | 54.8                   | ▲ 30.6        | ▲ 43.3 |          |  |
|       | 23年度 | 78    | 38.4             | 35.9       | 25.7                   | 12.7          | —      |          |  |
| 40歳代  | 25年度 | 68    | 35.3             | 30.9       | 33.8                   | 1.5           | 11.4   | 18.4     |  |
|       | 24年度 | 91    | 30.8             | 28.6       | 40.7                   | ▲ 9.9         | 7.0    |          |  |
|       | 23年度 | 89    | 27.0             | 29.2       | 43.9                   | ▲ 16.9        | —      |          |  |
| 50歳代  | 25年度 | 82    | 41.5             | 29.3       | 29.3                   | 12.2          | 12.2   | 30.6     |  |
|       | 24年度 | 98    | 30.6             | 38.8       | 30.6                   | 0.0           | 18.4   |          |  |
|       | 23年度 | 98    | 23.5             | 34.7       | 41.9                   | ▲ 18.4        | —      |          |  |
| 60歳代  | 25年度 | 111   | 32.4             | 36.0       | 31.5                   | 0.9           | ▲ 3.6  | ▲ 6.5    |  |
|       | 24年度 | 111   | 35.1             | 34.2       | 30.6                   | 4.5           | ▲ 2.9  |          |  |
|       | 23年度 | 109   | 35.8             | 35.8       | 28.4                   | 7.4           | —      |          |  |
| 70歳以上 | 25年度 | 94    | 48.9             | 28.7       | 22.3                   | 26.6          | 11.0   | 15.7     |  |
|       | 24年度 | 109   | 43.1             | 29.4       | 27.5                   | 15.6          | 4.7    |          |  |
|       | 23年度 | 110   | 35.4             | 40.0       | 24.5                   | 10.9          | —      |          |  |

【以前との比較】

| 年齢階層  | 調査年度 | 件数(人) |                                      |          |                                      |               |        | (ポイント)   |  |
|-------|------|-------|--------------------------------------|----------|--------------------------------------|---------------|--------|----------|--|
|       |      |       | ①よくなっている＋<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わっていない | ④どちらかという<br>悪くなっている＋<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |  |
| 29歳以下 | 25年度 | 37    | 37.8                                 | 43.2     | 18.9                                 | 18.9          | ▲ 6.6  | ▲ 20.3   |  |
|       | 24年度 | 43    | 39.5                                 | 46.5     | 14.0                                 | 25.5          | ▲ 13.7 |          |  |
|       | 23年度 | 46    | 43.5                                 | 52.2     | 4.3                                  | 39.2          | —      |          |  |
| 30歳代  | 25年度 | 46    | 30.4                                 | 58.7     | 10.9                                 | 19.5          | 22.3   | ▲ 4.2    |  |
|       | 24年度 | 36    | 19.4                                 | 58.3     | 22.2                                 | ▲ 2.8         | ▲ 26.5 |          |  |
|       | 23年度 | 59    | 32.2                                 | 59.3     | 8.5                                  | 23.7          | —      |          |  |
| 40歳代  | 25年度 | 50    | 36.0                                 | 50.0     | 14.0                                 | 22.0          | ▲ 0.5  | 11.3     |  |
|       | 24年度 | 71    | 33.8                                 | 54.9     | 11.3                                 | 22.5          | 11.8   |          |  |
|       | 23年度 | 75    | 29.4                                 | 52.0     | 18.7                                 | 10.7          | —      |          |  |
| 50歳代  | 25年度 | 71    | 29.6                                 | 59.2     | 11.3                                 | 18.3          | ▲ 6.1  | 16.0     |  |
|       | 24年度 | 78    | 37.2                                 | 50.0     | 12.8                                 | 24.4          | 22.1   |          |  |
|       | 23年度 | 88    | 25.0                                 | 52.3     | 22.7                                 | 2.3           | —      |          |  |
| 60歳代  | 25年度 | 105   | 36.2                                 | 52.4     | 11.4                                 | 24.8          | ▲ 9.5  | ▲ 3.2    |  |
|       | 24年度 | 102   | 41.2                                 | 52.0     | 6.9                                  | 34.3          | 6.3    |          |  |
|       | 23年度 | 100   | 41.0                                 | 46.0     | 13.0                                 | 28.0          | —      |          |  |
| 70歳以上 | 25年度 | 86    | 58.1                                 | 33.7     | 8.1                                  | 50.0          | 9.1    | 19.4     |  |
|       | 24年度 | 98    | 53.1                                 | 34.7     | 12.2                                 | 40.9          | 10.3   |          |  |
|       | 23年度 | 101   | 42.5                                 | 45.5     | 11.9                                 | 30.6          | —      |          |  |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 小学校放課後学習ルーム・サポートティーチャーは人気のようである。中学校にも拡充されていると思うが、全校で進めることができると、学力向上のみならず不登校対策にもつながると思う。勉強が理解できないということも中学生になってからの不登校の理由の一つになる。また、小学校で勉強の習慣が確立されると中学校での学習に大きく影響すると思う。

○

○

○

○

○



## プログラム2『命を守る』

### 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

#### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果で、実感が得られている状況だが、回答理由に「介護老人福祉施設、障害者支援施設の充実」が挙げられている。老人関係施設は、事業者が、地域にどのように貢献していくかという中で協力、協調がよく、取り組みが目に見える。横浜市では業者間の連携が十分ではないと聞いている。
- 障害者問題については一概には言えないが、就労報奨金という制度は日本でも類をみないので、それで保っている状況ではないか。
- 障害者の目にみえる就労者の安定と増加はあるが、離職した人たちが次のステップへどう移るかという課題について、就労支援センターで分析をしている。それぞれの立場で皆を支援している。
- アンケートの回答理由に、「就労の門戸が開かれている」というものもあれば「雇用の減少、企業の減少」というものもある。立場によって、人によって、考え方が違うのだろうと感じる。

表2-1 「誰もが活躍できるまちづくり」の状況

#### 【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |      |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 607   | 38.1             | 29.0           | 32.9                   | 5.2           | 7.8  | 8.6      |
| 24年度 | 640   | 34.7             | 28.0           | 37.3                   | ▲ 2.6         | 0.8  |          |
| 23年度 | 651   | 35.5             | 25.7           | 38.9                   | ▲ 3.4         | —    |          |

#### 【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                                |              |                                       |               |      |          |
|------|-------|---------------------------------------|--------------|---------------------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかというと<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかというと<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 509   | 44.4                                  | 45.4         | 10.2                                  | 34.2          | 2.5  | 5.5      |
| 24年度 | 529   | 40.5                                  | 50.7         | 8.8                                   | 31.7          | 3.0  |          |
| 23年度 | 557   | 39.8                                  | 49.0         | 11.1                                  | 28.7          | —    |          |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 70、80 歳になっても元気な高齢者がたくさんいる横須賀も面白いと思う。長寿の意味は何か。ただ生きているということではなく、健常でいかに長く活躍できるかということだと思う。横須賀は気候もよいし、海も近いし、誰もが長生きできると思う。
- 「子ども見守り隊」は高齢の方が多し。あまり数字には出てきていないようだが、地域に関わっていこうという姿勢をもっている高齢者の方は増えているのではないかとと思う。
- 高齢になっても仕事をしているという現状を、「タウンニュース」や「はまかぜ」などに小さく掲載してはどうか。自分たちの先輩がこのような仕事をしている、企業で役職者だった人が昔を捨てて今は市のため、自分のために働いているというPRも必要だと思う。
- 時間のある人に、働きがいをもってもらえるような取り組みの先導ができるとよい。
- どのような仕事、ボランティアでも、働こうという気持ちを高揚させるものがあるとよい。
- 誇りを与えるということは大事で、経費をかけないで工夫できるのではないかと。表彰状を出す、金バッジをあげるということでもよいと思う。そのようなPRも必要かと思う。
- 福島県いわき市へ復興支援に行き、復興協議会の事務所を仮設で設置したが、復興協議会の名目で集まる「場」となった。集まると、復興協議会の仕事に分担して取り組み始める。高齢者が多いが、使命感に燃えて、子どもが戻ってきて若い人たちと一緒に住める街をつくり直そうとしている。使命感をもって取り組める「場」があることが大事だと感じる。自分が居る「場」があるということが拠り所になる。
- 婦人会で日曜市の炊き出しをするが、売り上げで寄贈するなどモチベーションを上げて取り組んでいる。街のために、生きがいになるような、やってよかったと思えるような仕組みや仕掛けを、街全体でできるとよいと思う。それが発展していけば、色々なところでそれぞれが考えて取り組めるようになると思う。
- 横須賀では、駅ごとに図書館の貸し本の返却ポストがあるが、当時の職員のアイディアと聞いている。一つのアイディアを生み出すことによってそれが誇りにつながる。現場の職員が新しいことを見出した場合、それがすごく画期的なことでも世の中に評価されていないこともある。市民も評価するような仕組みづくりもあるとよいかもしれない。

- 中高年層への教育も必要である。
- アンケートの回答理由で、「そもそも就職先がない」という内容が目立つように感じる。  
プログラム4とつながるが、地域経済を全体で活性化していくような取り組みを行って  
いかなければいけないだろう。そうすることで地域間競争（自治体競争）にもなると思  
う。
- 肯定的な回答理由の中でも「幼児、高齢者などに対してはまだまだ不十分」とある。  
歩道の切り下げによるバリアフリーは、高齢者の転倒を防ぐことはもちろん、幼児や  
ベビーカーの親子にとっても優しい環境になる。

## 2-2 安全で安心なまちづくり

### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果では、「安全で安心なまちづくり」だけが評価を得られていない状況で、回答理由では「身近な犯罪が多い」「治安が悪い」という指摘がたくさんあるが、メディアの報道を見聞きした後で評価が下がっていることも考えられる。
- 横須賀の犯罪発生率は県下では低いほうなので、実態と合っていない。ニュースなどで「横須賀」と報道されたり、交番がなくなったりという中で感じている身近な不安が、アンケート結果に出てきているのだろう。
- 一般的に、大きな犯罪は減っているが、軽犯罪は増加傾向である。自転車の盗難や外壁の損壊など、当事者にとっては衝撃的なことである。町内会の回覧などでタイヤがパンクさせられた等の情報を目にすることが多いのも理由の一つではないか。
- 自転車の盗難などは、横須賀に限らず、恐らく日本中で起きてしまっていることでもあるので、「横須賀では多い」と市民に感じられてしまっているのはよくない傾向だろう。
- プログラム4にも関連するが、街のにぎやかさと軽犯罪は反比例すると思う。にぎやかさがなくなって人通りが少なくなると、安全面で、特に女性は不安が出てくるということもあるだろう。
- 商店が少なくなって、コンビニが増えている。コンビニ強盗などは連鎖的に生じるし、無人販売なども、代金を置かずに商品をとっていく人もいると聞く。高齢化の中で、直接は人目に触れない犯罪をどのように判断するのか難しいと思う。
- アンケートの回答理由で、「警察が対応してくれない、交番の減少、空き交番が多い」というものがある。地元の交番がなくなり、近隣地域の大きい交番で対応することになったが、緊急時に交番に電話をしても警察官が出払っていて誰も出ないので、110番（本署）に電話をすることになる。交番の減少に伴って、出動が間にあうのだろうかという不安を感じている。
- 市と警察とのコミュニケーションはあるだろうが、交番が減少して市民の不安は募っているように思う。

- 土砂崩れで電車が止まったという報道もあったが、そのような理由でのマイナス評価は少ないようだ。防災関係の回答理由は少なくして防犯関係が多い印象である。
- 防災は、傾斜地をコンクリートで固めたり、津波対策で海拔表示をしたりなど目でみえるものが多いので安心感をもつのだろうが、防犯はなかなか目にみえない。
- 横須賀は、基地があることは別にして、防犯はよいほうだと思う。鍵をかけなくてもよかったという昔の治安のレベルから、マイナスの方に振れてきているのかもしれない。
- 防犯でも、地域では、夕方になると徒歩や車で放送を流しながら巡回してくれているのが、聞こえるし、みえる。対策が目に見えるかどうか、それが抑止力になるとのだと思う。
- 地域に住む子どもたちを見守っていくというスタンスで、どここの学校にも「子ども見守り隊」がある。子どもたちの登下校や、放課後の地域を見守ってくれるほか、子どもが駆け込みやすい「子ども 110 番」などのステッカーを自宅や自転車に貼っている。それらが抑止力になっている。

表 2－Ⅱ 「安全で安心なまちづくり」の状況

【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |       |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 703   | 40.5             | 25.3           | 34.1                   | 6.4           | 3.8   | ▲ 5.7    |
| 24年度 | 728   | 39.8             | 22.9           | 37.2                   | 2.6           | ▲ 9.5 |          |
| 23年度 | 711   | 44.8             | 22.5           | 32.7                   | 12.1          | —     |          |

【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |       |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 619   | 37.6                                 | 44.4         | 17.9                                 | 19.7          | ▲ 0.1 | ▲ 7.0    |
| 24年度 | 638   | 38.0                                 | 43.9         | 18.2                                 | 19.8          | ▲ 6.9 |          |
| 23年度 | 645   | 41.0                                 | 44.7         | 14.3                                 | 26.7          | —     |          |

---

## (2) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 市民は防犯に引っかかりがあるのかなという印象である。やはり一人一人が防犯についても取り組んでいくことを考えていかないといけない。アピールしたから、交番ができたからといってよくなるものではない。
- 警察の敷居が高いのではないかとすることをすごく感じる。例えば、子どもが下校中に不審者から声をかけられた場合には、まず 110 番、まず警察に連絡するように、と伝えても学校に連絡してくる。警察に連絡しやすい横須賀になってほしい。
- 人は自分の近くで体験したことは怖いと思うけれど、実際にみえないことは自分には起こらないと思う傾向がある。津波や土砂崩れなどは脅威に感じていないのだろう。
- しかし、例えば横須賀中央駅を歩いた時に客引きがいると、治安が落ちたということになる。そのようなみえるところを改善していくことが大事である。
- 重点プロジェクトの目標にある「自主防災訓練の実施率」(資料 2p9) について、消防団で活動していると、訓練等の回数が増えたことは実感できるが、参加者が非常に少ない。回数や実施内容を増やすことはよいことと思うが、同時に、どのように参加を促していくのかという観点でも、今後、考えていく必要があると思う。
- 一人一人が災害の危険性をもっと身近に感じればよいのではないか。学校は津波訓練なども繰り返し実施している。地域には、自分は大丈夫だと思っている大人が多いと思う。他人事ではないと考えられるようになれば、防災訓練にも参加するようになると思う。
- 「子ども見守り隊」は話題になり、表彰などもされているが、防災関係はそんなことがない。やはり皆で評価していくことが大事だと思う。評価していく仕組みをつくれば、住民力で地域防災が進み、安心感につながっていく。「子ども見守り隊」のお陰で、実際に空き巣は確実に減っている。
- 地域の子どもはハード面からみても空間的にみても「学校」が基盤である。地域の人の子どもを見守るということは昔から日本でやってきたことでもあり、行政的にサポートしていければよいのではないか。財政的にもそれほどコストはかからないだろう。

- 防災に関しては、地域に加えて、企業や商店にも協力を仰いだ方がよいと感じる。車や人の往来が多いところに立地している企業の警備員が、横断歩道で子どもたちの誘導をしているのを目にする。子どもたちとのコミュニケーションも上手にしている。企業もその街にいるのだから、地元のことも考えてもらえるよう協力を仰ぐべきだと感じる。
- 商店街が減少していることは問題である。地域全体で子どもたちを守ったり、高齢者のサポートをしたりする中で、コミュニティが明るくなるので、そういうことも考えていかなければいけない。
- アンケートでこのような理由を聞く尋ね方をすると、市民の方は自治体に対して、助成金をもっと出してほしいとか施設やサービスを充実させてほしいという要望に近い意見が多く出るが、予算がある中で取り組んでいるので、優先順位をつけることが必要だと思う。
- 行政が経費をかけて取り組むことなく、仕掛けをつくって市民を後押しするようにすればよいのではないか。
- 防災訓練等でも、自治会に入っていない人に声をかけたり、街のためにやってくださいというお願いをしたりするなど、目にみえるかたちで取り組むとよい。
- 町内会館などを、自治会活動に関わってきた人たちだけのものとするのではなく、オープンにしてシェアするなど、今までとは違う方法で、インドアになっている高齢者に外に出てきて活躍してもらえる方法があれば、防災や防犯などで力になると思う。
- 高齢化が進む中で、一人暮らしの人をどのように見守っていくかという大きな課題が出てくるだろう。
- 例えば、社会福祉協議会で実施している弁当宅配は、日が限られているため、民間の終日宅配に押されて需要が減っていると聞く。民間と行政がどのように連携していくか課題はあるが、安全につながる可能性がある。



## プログラム3『環境を守る』

### 3-1 人と自然が共生するまちづくり

#### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果で、DI が 50 ポイントを超えて非常に実感が得られていることは大変評価できる。横須賀の環境に対する愛着が高まっているのかなと思う。
- 実感が高い中で、否定的な回答理由にある「宅地造成、マンション乱立、施設建設など開発による自然破壊」という点については、新築マンション等の折り込み広告などで航空写真が多く使われていて、山が削られていることをまざまざとみることになるため、そのようなことも影響しているのではないかな。
- 回答理由の「自然が残っていることによる住みにくさ」と開発の関係について、山の上に住んでいる人は本当に大変だと思う。一方、山の上からみると、開発が進んでみどりがなくなっていることがわかる。これ以上開発すると自然がなくなるのではないかと不安になるが、それでもまだマンションは増えている。横須賀の地形による宿命かなと思う。
- 佐島の宅地開発などがあったが、交通の便があまりよいところではないので購入できる方は限られるのかなと思うが、逆に、ゆとりのある暮らしができる、自然の中での暮らしができるということで購入されている人が多いようだ。
- 子育てをしている母親たちの間では、公園がない、公園がたくさんある、と意見が分かれる。ハイランドなど宅地造成したところは計画的に公園が造られているが、津久井浜や長沢など昔ながらの土地で自然発生的にできたところは、「ソレイユの丘」など大きいところはあるが、近くで遊ぶところがない。計画的に宅地造成されたところのメリットだと思う。
- 重点プロジェクトの目標「市民1人当たり公園・緑地面積」(資料2p11)の数値が上がっているが、人口が減少しているからとも考えられるのではないかな。仮に同じ人口で推移していた場合でも数値は上がってくるのかな、精査が必要である。
- エコ関係で実感が得られている理由として、NPO 法人のサポートの増加があると思う。西地区の実感が上がっているが、例えば、西地区の前田川を保全しているグループが盛んに活動されている。そのような活動を紙面でみると、市がサポートしている、市民も頑張っているということが感じられるのではないかな。

表３－Ⅰ 「人と自然が共生するまちづくり」の状況

【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |       |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 686   | 68.5             | 14.9           | 16.6                   | 51.9          | 6.5   | 3.2      |
| 24年度 | 727   | 66.0             | 13.3           | 20.6                   | 45.4          | ▲ 3.3 |          |
| 23年度 | 716   | 68.2             | 12.3           | 19.5                   | 48.7          | —     |          |

【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |       |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 603   | 46.6                                 | 37.3         | 16.1                                 | 30.5          | 9.2   | 8.9      |
| 24年度 | 631   | 43.3                                 | 34.7         | 22.0                                 | 21.3          | ▲ 0.3 |          |
| 23年度 | 641   | 44.1                                 | 33.4         | 22.5                                 | 21.6          | —     |          |

表３－Ⅱ 「人と自然が共生するまちづくり」の地域別状況

【現在について】

| 居住地域    | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |            |                        |               |        |          |
|---------|------|-------|------------------|------------|------------------------|---------------|--------|----------|
|         |      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらともいえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |
| 追浜・田浦   | 25年度 | 76    | 64.5             | 11.8       | 23.7                   | 40.8          | 24.1   | ▲ 0.7    |
|         | 24年度 | 72    | 51.4             | 13.9       | 34.7                   | 16.7          | ▲ 24.8 |          |
|         | 23年度 | 77    | 67.5             | 6.5        | 26.0                   | 41.5          | —      |          |
| 本庁・逸見   | 25年度 | 105   | 72.4             | 15.2       | 12.4                   | 60.0          | 11.9   | 8.5      |
|         | 24年度 | 135   | 65.9             | 16.3       | 17.8                   | 48.1          | ▲ 3.4  |          |
|         | 23年度 | 130   | 70.0             | 11.5       | 18.5                   | 51.5          | —      |          |
| 衣笠      | 25年度 | 95    | 65.3             | 17.9       | 16.8                   | 48.5          | 14.9   | ▲ 3.3    |
|         | 24年度 | 107   | 60.7             | 12.1       | 27.1                   | 33.6          | ▲ 18.2 |          |
|         | 23年度 | 112   | 68.7             | 14.3       | 16.9                   | 51.8          | —      |          |
| 大津・浦賀   | 25年度 | 159   | 67.3             | 13.8       | 18.9                   | 48.4          | ▲ 5.6  | 4.2      |
|         | 24年度 | 163   | 71.2             | 11.7       | 17.2                   | 54.0          | 9.8    |          |
|         | 23年度 | 163   | 64.4             | 15.3       | 20.2                   | 44.2          | —      |          |
| 久里浜・北下浦 | 25年度 | 155   | 69.7             | 18.1       | 12.3                   | 57.4          | 3.6    | ▲ 1.3    |
|         | 24年度 | 169   | 70.4             | 13.0       | 16.6                   | 53.8          | ▲ 4.9  |          |
|         | 23年度 | 143   | 74.8             | 9.1        | 16.1                   | 58.7          | —      |          |
| 西       | 25年度 | 78    | 71.8             | 11.5       | 16.7                   | 55.1          | 0.9    | 12.7     |
|         | 24年度 | 59    | 69.5             | 15.3       | 15.3                   | 54.2          | 11.8   |          |
|         | 23年度 | 78    | 65.4             | 11.5       | 23.0                   | 42.4          | —      |          |

【以前との比較】

| 居住地域    | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |          |                                      |               |        |          |
|---------|------|-------|--------------------------------------|----------|--------------------------------------|---------------|--------|----------|
|         |      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わっていない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |
| 追浜・田浦   | 25年度 | 67    | 38.8                                 | 41.8     | 19.4                                 | 19.4          | 19.4   | ▲ 3.0    |
|         | 24年度 | 66    | 26.9                                 | 30.8     | 26.9                                 | 0.0           | ▲ 22.4 |          |
|         | 23年度 | 67    | 46.3                                 | 29.9     | 23.9                                 | 22.4          | —      |          |
| 本庁・逸見   | 25年度 | 89    | 44.9                                 | 43.8     | 11.2                                 | 33.7          | 5.7    | 8.3      |
|         | 24年度 | 118   | 39.9                                 | 30.8     | 11.9                                 | 28.0          | 2.6    |          |
|         | 23年度 | 118   | 41.5                                 | 42.4     | 16.1                                 | 25.4          | —      |          |
| 衣笠      | 25年度 | 82    | 47.6                                 | 39.0     | 13.4                                 | 34.2          | 19.1   | 14.7     |
|         | 24年度 | 93    | 44.1                                 | 26.9     | 29.0                                 | 15.1          | ▲ 4.4  |          |
|         | 23年度 | 103   | 41.8                                 | 35.9     | 22.3                                 | 19.5          | —      |          |
| 大津・浦賀   | 25年度 | 146   | 45.9                                 | 32.9     | 21.2                                 | 24.7          | 6.2    | 5.1      |
|         | 24年度 | 138   | 38.3                                 | 24.6     | 19.8                                 | 18.5          | ▲ 1.1  |          |
|         | 23年度 | 148   | 47.3                                 | 25.0     | 27.7                                 | 19.6          | —      |          |
| 久里浜・北下浦 | 25年度 | 138   | 53.6                                 | 34.8     | 11.6                                 | 42.0          | 19.1   | 9.7      |
|         | 24年度 | 141   | 37.6                                 | 30.6     | 14.7                                 | 22.9          | ▲ 9.4  |          |
|         | 23年度 | 124   | 50.8                                 | 30.6     | 18.5                                 | 32.3          | —      |          |
| 西       | 25年度 | 66    | 45.5                                 | 37.9     | 16.7                                 | 28.8          | 15.6   | 26.1     |
|         | 24年度 | 53    | 32.1                                 | 49.1     | 18.9                                 | 13.2          | 10.5   |          |
|         | 23年度 | 72    | 30.5                                 | 41.7     | 27.8                                 | 2.7           | —      |          |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 近年、整地された土地が目立ち、繁華街の裏などは駐車場にされているところが多い。跡地が上手に活用されるには集約などが期待されるが、現状は有料駐車場が目立っている。まち自体が様々なことで非常に変化している中で、どのような変化の方向に主導していくのか、どのようなまちづくりをしていくのか。コンパクトシティ化を進めようとするのか、現状のままでいくのか、岐路に立っていると感じる。
- 横須賀には海辺の環境、まちの環境、田園の環境とある中で、二極化している。東京湾側は人工的な整備がされて人が多く住んでおり、近くの山も宅地造成している。一方、西側は交通アクセスの問題もあるが、自然を残している。  
東京湾側は交通利便性のよさで人が住みやすいため、そちらに重点を置いたまちづくり、地域づくりが行われているので、どのように自然を補完するかが課題であり、みどりの育成が必要かもしれない。西側は自然を保全しながら、どのように住みやすさをつくりだすかが課題だろう。
- 経済効果でマンションや宅地造成は両輪だと思うが、カモフラージュはできるように思う。東戸塚・保土ヶ谷間で工場跡地がマンション群になったが、元々桜並木が有名なところだったので、それらを残して公園のような造り方をしている。宅地造成したときに、まちづくりの規制を設けて、自然を生かしたきれいなマンション群などにすれば、一帯が公園のような雰囲気になり、市民の印象が変わると感じる。
- 一昔前のような自然を壊しての宅地開発は、消費者にも評価されなくなってきている。マンションなどでも、みどりが多く、公園がある、環境と離れるが託児施設がある、防犯面が優れているというところが評価につながってくると思うので、開発の観点では、環境や地形を生かした造成、開発をしていくことが必要だろう。
- 重点事業として「横須賀エコツアー推進事業」がある。緑地保全や公園の整備も大事だが、より直接的に自然と触れる機会を設けるような事業を展開できれば、より実感が上昇していくのではないかな。
- 横須賀ではエコツアーなどの取り組みに非常に力を入れているし、企業も協力して共に取り組んでいければよいかなと思う。横須賀の強みは、やはり首都圏から近いところに豊かな自然環境が残っているということだと思う。告知や旅行商品等で、その強みを発信していくような取り組み、環境をウリにしていくような取り組みを考えてはどうか。

## 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果では、高い実感が得られているが、回答理由に「環境教育の充実」が挙げられていて嬉しく思う。学校の環境教育については、必ず3～6年生の「総合的な学習の時間」の中で学ぶし、国語や社会の教材でも必ず触れられる。学校は、子どもたちにとって、目の前にある環境についてどう考えるかを学びやすいところだと思う。大人よりも環境を守っていこうという意識があると感じる。
- 若年層の実感が下がっていることについて、今の若年層は小学生の頃から社会見学でごみ処理場やアイクルなどに行く中で、横須賀は環境について進んでいるまちだとインプットされている。施設があることも知っていて環境教育も受けてきているが、それらがどのように今の横須賀の環境に影響しているのか、効果が出ているのかがみえない。  
ただ施設がある、環境に取り組んでいるというだけでは、若年層にとってそれが当たり前になっているので、横須賀が環境について進んでいるという意識がどんどん薄れるのだと思う。アンケートの回答理由にある「施策の効果が分からない、取り組みが見えない」という点なのではないか。
- 昔は、道も舗装されてない、ごみも出っぱなしという状況だったので、中高齢層は、今はクリーン活動等で非常によくなっていると実感するのだろう。若年層のほうが必要水準が高く、現在の状況はもはや当たり前であり、年代によって差があるのかもしれない。
- 横須賀のクリーン活動については、日々目にするので、どの年代においてもよくなっていると評価されているように思う。
- 70歳代の実感が得られているのは、広報活動によるところがあると思う。広報をみるのは60、70歳代が多いし、何かを判断するときに、年代的にも紙面でみることが多い。広報よこすか等で、市の取り組みや講じている対策などが取り上げられていると、取り組んでもらっているのだなと感じるのではないか。

表 3－Ⅲ 「地球環境に貢献するまちづくり」の状況

【現在について】

| 調査年度        | 件数(人)      | (ポイント)           |                |                        |               |            |             |
|-------------|------------|------------------|----------------|------------------------|---------------|------------|-------------|
|             |            | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比       | 25-23年度比    |
| <b>25年度</b> | <b>616</b> | <b>50.6</b>      | <b>25.0</b>    | <b>24.4</b>            | <b>26.2</b>   | <b>8.1</b> | <b>12.7</b> |
| 24年度        | 650        | 45.7             | 26.8           | 27.6                   | 18.1          | 4.6        |             |
| 23年度        | 666        | 43.4             | 26.7           | 29.9                   | 13.5          | —          |             |

【以前との比較】

| 調査年度        | 件数(人)      | (ポイント)                               |              |                                      |               |            |            |
|-------------|------------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|------------|------------|
|             |            | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比       | 25-23年度比   |
| <b>25年度</b> | <b>532</b> | <b>46.6</b>                          | <b>43.6</b>  | <b>9.8</b>                           | <b>36.8</b>   | <b>0.4</b> | <b>0.7</b> |
| 24年度        | 553        | 44.7                                 | 47.0         | 8.3                                  | 36.4          | 0.3        |            |
| 23年度        | 584        | 46.2                                 | 43.7         | 10.1                                 | 36.1          | —          |            |

表 3－Ⅳ 「地球環境に貢献するまちづくり」の年齢別状況

【現在について】

| 年齢階層  | 調査年度        | 件数(人)      | (ポイント)           |             |                        |               |              |             |
|-------|-------------|------------|------------------|-------------|------------------------|---------------|--------------|-------------|
|       |             |            | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらともいえない  | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比         | 25-23年度比    |
| 29歳以下 | <b>25年度</b> | <b>64</b>  | <b>48.4</b>      | <b>25.0</b> | <b>26.6</b>            | <b>21.8</b>   | <b>6.6</b>   | <b>7.7</b>  |
|       | 24年度        | 79         | 46.8             | 21.5        | 31.6                   | 15.2          | 1.1          |             |
|       | 23年度        | 78         | 44.9             | 24.4        | 30.8                   | 14.1          | —            |             |
| 30歳代  | <b>25年度</b> | <b>69</b>  | <b>49.3</b>      | <b>29.0</b> | <b>21.7</b>            | <b>27.6</b>   | <b>29.1</b>  | <b>6.1</b>  |
|       | 24年度        | 68         | 39.7             | 19.1        | 41.2                   | ▲ 1.5         | ▲ 23.0       |             |
|       | 23年度        | 93         | 50.5             | 20.4        | 29.0                   | 21.5          | —            |             |
| 40歳代  | <b>25年度</b> | <b>76</b>  | <b>40.8</b>      | <b>30.3</b> | <b>28.9</b>            | <b>11.9</b>   | <b>▲ 1.7</b> | <b>21.3</b> |
|       | 24年度        | 103        | 37.9             | 37.9        | 24.3                   | 13.6          | 23.0         |             |
|       | 23年度        | 107        | 30.8             | 29.0        | 40.2                   | ▲ 9.4         | —            |             |
| 50歳代  | <b>25年度</b> | <b>119</b> | <b>48.7</b>      | <b>26.1</b> | <b>25.2</b>            | <b>23.5</b>   | <b>▲ 0.5</b> | <b>8.6</b>  |
|       | 24年度        | 121        | 47.1             | 29.8        | 23.1                   | 24.0          | 9.1          |             |
|       | 23年度        | 115        | 45.3             | 24.3        | 30.4                   | 14.9          | —            |             |
| 60歳代  | <b>25年度</b> | <b>148</b> | <b>53.4</b>      | <b>23.6</b> | <b>23.0</b>            | <b>30.4</b>   | <b>1.1</b>   | <b>10.7</b> |
|       | 24年度        | 133        | 52.6             | 24.1        | 23.3                   | 29.3          | 9.6          |             |
|       | 23年度        | 132        | 44.7             | 30.3        | 25.0                   | 19.7          | —            |             |
| 70歳以上 | <b>25年度</b> | <b>125</b> | <b>56.8</b>      | <b>22.4</b> | <b>20.8</b>            | <b>36.0</b>   | <b>19.2</b>  | <b>14.4</b> |
|       | 24年度        | 125        | 45.6             | 25.6        | 28.8                   | 16.8          | ▲ 4.8        |             |
|       | 23年度        | 129        | 45.7             | 30.2        | 24.1                   | 21.6          | —            |             |

【以前との比較】

| 年齢階層  | 調査年度        | 件数(人)      | (ポイント)                               |             |                                      |               |               |               |
|-------|-------------|------------|--------------------------------------|-------------|--------------------------------------|---------------|---------------|---------------|
|       |             |            | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わっていない    | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比          | 25-23年度比      |
| 29歳以下 | <b>25年度</b> | <b>46</b>  | <b>39.1</b>                          | <b>43.5</b> | <b>17.4</b>                          | <b>21.7</b>   | <b>▲ 7.4</b>  | <b>▲ 21.4</b> |
|       | 24年度        | 55         | 41.8                                 | 45.5        | 12.7                                 | 29.1          | ▲ 14.0        |               |
|       | 23年度        | 51         | 52.9                                 | 37.3        | 9.8                                  | 43.1          | —             |               |
| 30歳代  | <b>25年度</b> | <b>52</b>  | <b>32.7</b>                          | <b>53.8</b> | <b>13.5</b>                          | <b>19.2</b>   | <b>6.1</b>    | <b>▲ 20.0</b> |
|       | 24年度        | 46         | 28.3                                 | 56.5        | 15.2                                 | 13.1          | ▲ 26.1        |               |
|       | 23年度        | 79         | 46.8                                 | 45.6        | 7.6                                  | 39.2          | —             |               |
| 40歳代  | <b>25年度</b> | <b>62</b>  | <b>41.9</b>                          | <b>54.8</b> | <b>3.2</b>                           | <b>38.7</b>   | <b>8.3</b>    | <b>8.5</b>    |
|       | 24年度        | 89         | 37.1                                 | 56.2        | 6.7                                  | 30.4          | 0.2           |               |
|       | 23年度        | 96         | 39.6                                 | 51.0        | 9.4                                  | 30.2          | —             |               |
| 50歳代  | <b>25年度</b> | <b>109</b> | <b>45.9</b>                          | <b>42.2</b> | <b>11.9</b>                          | <b>34.0</b>   | <b>▲ 11.4</b> | <b>4.0</b>    |
|       | 24年度        | 99         | 52.5                                 | 40.4        | 7.1                                  | 45.4          | 15.4          |               |
|       | 23年度        | 107        | 42.1                                 | 45.8        | 12.1                                 | 30.0          | —             |               |
| 60歳代  | <b>25年度</b> | <b>135</b> | <b>50.4</b>                          | <b>42.2</b> | <b>7.4</b>                           | <b>43.0</b>   | <b>0.9</b>    | <b>9.3</b>    |
|       | 24年度        | 128        | 48.4                                 | 45.3        | 6.3                                  | 42.1          | 8.4           |               |
|       | 23年度        | 122        | 48.4                                 | 36.9        | 14.7                                 | 33.7          | —             |               |
| 70歳以上 | <b>25年度</b> | <b>117</b> | <b>53.8</b>                          | <b>38.5</b> | <b>7.7</b>                           | <b>46.1</b>   | <b>5.4</b>    | <b>1.1</b>    |
|       | 24年度        | 118        | 48.3                                 | 44.1        | 7.6                                  | 40.7          | ▲ 4.3         |               |
|       | 23年度        | 120        | 51.6                                 | 41.7        | 6.6                                  | 45.0          | —             |               |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 市としてのターゲットの人口層をどこにするかによるが、30 歳代、29 歳以下にかなり重きを置いて定住してもらうことを考えると、環境はすごく大事だと思う。何故、若年層の実感が低下したのかを精査できるとよいと思う。環境は、横須賀にとってとても大事なまちづくりのキーワードである。
- 若年層が現状を当たり前と感じているのだとすれば、横須賀はもっと踏み込んだ施策を行って、“見える化” していかなければいけないだろう。
- 底辺にいる子どもたちが、自分たちの住んでいる横須賀、地球をどのように守っていくかということは、今後も学習していく必要があると感じる。
- 重点プロジェクトの目標にある「ごみの総排出量」は、既に目標を達成しているので、もっと高い目標にした方がよいかもしれない。高水準を目指すことは大変だとは思いますが、それが一つのアピールすべき政策なのかと思う。
- 若年層のアンケート回答数が少なく、どんどん減ってきている。一人の回答がダイレクトに回答傾向に反映されてしまうということも影響していると思う。若い方にも積極的に回答していただけるようになるとまた違う傾向もみられると思う。

## プログラム4『にぎわいを生む』

### 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

#### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果では、依然として実感が得られていない中、回答理由で、4-1、4-2ともに「イベント」について挙げられている。しかし、「イベントが多い」「イベントがない」など意見が分かれている。
- イベントが集客だけではなく商店街や地域のために直結しているかどうかということも問われているように思う。大規模なイベントが本当に地域の活性化に役立っているのかどうか。意見が分かれているという点は注目する必要がある。
- イベントが地域に直結しているという実感がなく、「にぎわいや活気を感じない」という否定的な回答になっているように思う。地域と直結したイベントを推進していく必要もあるだろう。
- ペリー祭などのイベントに合わせて、久里浜商店街でフリーマーケットなどを毎年行っているが、年に2回程で数は多くない。久里浜商店街にあるお店の話では、商店街を盛り上げようとは思っているが、自身の店の経営状況を考えるとそこまでの余裕がない。商店街が盛り上がれば自身の店にも人が来ることは分かっているが、自分たちの生活や目の前のことを考えると、その先のことまで考えられないと聞いた。
- 追浜地域は年間で、商店街、観光協会、地域が連携したイベントが幾つかある。商店街、行政センター等が連携して頑張っていると感じている。学校も追浜ソーランや仮装パレードへの参加等、連携して取り組んでいるし、そのような盛んな地域もある。
- 今年の「うわまち浪速灯ろう祭り」では基地の方がたくさん来ていた。商店街のポスターに英文でも併記されていて、さらに基地に勤務している方がそれを基地の中に持ち込み掲示してくれた。外国人が多く大変にぎわっていた。町おこしの一つとして、商店街が寂れてきている中で再び活性化させようとする人もたくさんいて、それを住民がサポートしていることを感じている。もう少し長い目で見てもらえればと思う。
- 雇用について、今後は共働きが一般的になってくるだろうが、女性が子育てと仕事を両立するには職住近接は大事である。今、居住地を選択するのは女性が主体となっているので、市内に仕事がないと住みにくいかもしれない。

表 4 - I 「地域経済の活性化と雇用の創出」の状況

【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |      |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 628   | 24.4             | 22.9           | 52.7                   | ▲ 28.3        | 4.0  | 5.8      |
| 24年度 | 668   | 21.2             | 25.3           | 53.5                   | ▲ 32.3        | 1.8  |          |
| 23年度 | 653   | 20.2             | 25.6           | 54.3                   | ▲ 34.1        | —    |          |

【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |      |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比 | 25-23年度比 |
| 25年度 | 557   | 25.9                                 | 38.2         | 35.9                                 | ▲ 10.0        | 2.9  | 6.8      |
| 24年度 | 577   | 24.8                                 | 37.4         | 37.7                                 | ▲ 12.9        | 3.9  |          |
| 23年度 | 595   | 22.2                                 | 38.8         | 39.0                                 | ▲ 16.8        | —    |          |

## (2) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

- にぎわいの大きな要素として、人の往来は当たり前だが、みえるところが大事である。  
例えば、京急久里浜駅から横須賀総合高等学校への通りは、高校生の通学路なのでにぎわいを感じられるし、皆の気持ちが明るくなる。子ども、学生、特に高校生などを上手に回遊させるような手立てがあるとよいと思う。
- 高校生は集まれる「場」を求めている。久里浜商店街の道筋の周囲はある程度にぎわうが、商店街の中には人が入ってこないという問題があるので、高校生を商店街の中に呼べるような仕組みづくりがあるとよい。
- これからの商店街の枠組みを考えるには、人に来てもらうこと以外の新しいことを考えるとよいと思う。保育園が不足している中、商店街の多くは駅の近くにあるので、NPO 法人等による託児施設があると、子どもや若い親たちが行き交ってよいと思う。商店街を新しい取り組みの中で考えていくことが大事かと思う。
- 単に空き店舗がなくなってチェーン店が入るということでは、恐らく商店街を潰してしまう。コミュニティーニーズがきちんとマッチするものをどう考えるかが大事で、単に空き店舗率が下がったからよい、という話ではない。
- 商店街には若年層が少なく、中高齢層が中心で、柔軟性に乏しい印象がある。若年層が何かよいことを提案しても受け入れてもらえないという問題もあり、どんどん若年層のやる気もなくなっていくという悪循環がある。行政がアドバイスなどをして活性化し、若年層の意見も取り入れていかないと、新しいことは生まれていかないと感じる。

- 中学生の職業体験を商店街で受け入れているが、子どもたちがいると華やいでいる。大人は子どもたちには甘くなるので、自分の子どもから言われた意見は受け入れられなくても、職業体験の子どもたちからの意見なら受け入れるかもしれない。商工会議所とタイアップして高校生の職業体験まで受け入れてもらえると新しい意見に耳を傾けてもらえるのではないかな。
- 追浜で町おこしをしている NPO 法人「アクションおっぱま」があるが、追浜が頑張っている原動力だと思う。リーダーが元大学教授で、商店街や地域と非常に密着して活動している。行政センターとのつながりもあり、よいかたちだと感じる。素人で熱意をもって取り組むことも大事だが、やり方の道筋をつけるにはそのような専門家が一緒に取り組むことも大きいと思う。
- 市にある幾つかの商店街を活気がある、ない等で分類して、どのようなリーダー養成をしていけばよいかなど、政策的に取り組む必要もある。
- 地域と密着したイベントを行っていく際には、地域住民が企画段階から参加することが重要だと感じる。一方で、イベントの企画をするときにすぐに人が集まるかという点、特に若年層は難しいだろう。若年層が日頃から地元の取り組みに参加できるような仕組み、話し合いの場などを設けていけば、その結果としてイベントの企画がよりよくなっていくと思う。
- 京急で「普通電車の旅」というフリーペーパーを発行している。色々な駅を紹介しながら足を運んでもらうことをねらいとするものだが、沿線ではあっても全然知らないこと、実際に行ってみて見聞きしないとわからないことはやはり多い。地域のまつりやイベントなどの小規模なものも、もう少し沿線や地域を広げて発信していけるような仕組みがあると面白いし、ただ紹介するだけではなく、ここに行くところということがあると発信できると、もう少し人の動きも出てくると思う。  
web などを使った仕組みも考えていければよいのではないかな。
- 雇用は非常に難しいところである。横須賀は自動車製造業などが中心だったが潮が引いてきている。今後、グローバルな地域の会社が出てこないといけないのではないかな。NTT の研究所が YRP にあるので、そこにビッグデータの回線センターを置いてもらうなど、皆が驚くようなことが実現できれば注目されるかもしれない。どこの地域もそのようなことを狙っているのが厳しいだろうが、市民の気持ちが活性化するかもしれない。

- 東京 23 区の一事業所当たりの従業員数と多摩市の従業員数は 1 対 4 で、多摩市のほうが大企業が多い。しかし、グローバル化してくると大企業は中国などに出てしまう。一事業所がなくなるダメージは、多摩市は東京 23 区の 4 倍になる。そのようなことを考えると、大企業を誘致して雇用先をつくっても、撤退すると大きく響くので、中小企業でいかにたくさん雇用を創出できるかが大事になるだろう。
- 従来のものづくりも大事だが、YRP にも大企業が誘致されているので、コミュニティービジネスやベンチャーなど、それらが裾野を広げていくように機能してくれるとよい仕組みを構築できるとよいと感じる。
- 横須賀が、製造業でいくのか商業でいくのか観光事業でいくのか介護事業でいくのか、筋立てをして方向づけていかなければいけない時代かもしれない。
- ハローワークでは、薬剤師やヘルパーなどの求人がほとんどだが、特に、介護等については働く人たちの課題がある。ハードとソフトが噛み合わない。例えば、保育所などを増やしても保育士の人材が不足するからミスマッチに直面する。若い人たちがそのような職種に積極的に取り組める、将来を託せる事業基盤をどのように構築していくかが課題だろう。
- 神奈川県は、人口の割には大学数が少ないというデータもある。東京の大学からすると草刈場である。大学は一つの人材供給の場でもあるし、シリコンバレーもそうだが、土地があるなら、大学などの立地、それに伴うサービス業なども期待できる。横須賀には県立保健福祉大と神奈川歯科大があるようだが、そのようなことも考えていく必要がある。
- 横須賀には JAMSTEC（海洋研究開発機構）があり、正社員ではなくても雇用が出てきている。また、土地がなくても、ナショナルトレーニングセンターなど、日本チームの強化センターができれば雰囲気も変わると思う。
- ベンチャーも、既存の事業を育てていく方向に転換しているのはよいと思う。“Think Globally, Act Locally”（地球規模で考え、足元から行動せよ）というが、地場産業を育てることは大事である。
- 母親たちの間でも、子どもができると OL 時代とは違って仕事を限定しなくなり、横須賀の地場産食材の加工工場に勤めている人が多い。そのようなところを育てて一つの雇用先としていけるとよいと思う
- 地産地消の次のステップを考えたい。漁師がとったものを燻製にしている店がある。六次産業化などいわれているが、そういうことも考えなければいけない。各産業が連携して付加価値を高めていくことも大事かもしれない。

- 姉妹都市などとのネットワークづくりも大事だと思う。商工会議所のサイトにもよく出ているが、隠れた地元の人しかわからないところを、横須賀だけではなく、他の地域のサイトにも載せてもらってはどうか。例えば、福島県のアンテナショップが東京にできたら横須賀のものも置いてもらう。その代わり YI ポートにも福島県のことを置いてみる。アンテナショップは銀座などよいところにあるので、収益の期待はできないかもしれないが、ファンがつけば横須賀の知名度が上がるだろう。
- 地方紙厳選のお取り寄せサイトがあり、土産物を互いの新聞に載せたりもしている。地方都市も互いに手を取り合って、市場の奪い合いをするのではなく、市場を広げる取り組みをしたらよいのではないか。

## 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

### (1) 現在の状況に対する実感

- アンケート結果では、実感が高いとはいえない状況であるが、肯定的な回答理由で「軍港めぐり」が見受けられる。軍港めぐりは素晴らしいし、市外の人が大勢来ていて何年経っても人気は衰えない。一つの横須賀らしいところである。

○

○

○

表4-Ⅱ 「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の状況

#### 【現在について】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |       |          |
|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 657   | 37.1             | 25.0           | 37.9                   | ▲ 0.8         | 4.3   | 0.7      |
| 24年度 | 686   | 33.8             | 27.3           | 38.9                   | ▲ 5.1         | ▲ 3.6 |          |
| 23年度 | 685   | 37.0             | 24.5           | 38.5                   | ▲ 1.5         | —     |          |

#### 【以前との比較】

| 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |       |          |
|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|-------|----------|
|      |       | ①よくなっている+<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている+<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| 25年度 | 581   | 38.9                                 | 40.6         | 20.5                                 | 18.4          | 2.5   | 0.1      |
| 24年度 | 598   | 35.8                                 | 44.3         | 19.9                                 | 15.9          | ▲ 2.4 |          |
| 23年度 | 609   | 38.0                                 | 42.4         | 19.7                                 | 18.3          | —     |          |

---

## ( 2 ) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 市外の人に来ないと横須賀がなかなか元気にならないので、何とかして市外の人を呼び込みたい。横須賀は各地に色々な素材があるし、横須賀に行ってみたいと思えるようなイベントも地域にはたくさんある。県下では箱根神社に次ぐくらい格が上がってきた大津諏訪神社や、おりょうさんまつりなどは、造詣の深いファンがいて市外からも人が来るので、そういうものを利用して地域から集客を図ることも大事だと感じる。
- 埼玉、東京など海のない地域の人横須賀に来ると感激する。もっと海を生かした集客の方法も考えてはどうか。
- 横須賀は宿泊してもらえないと伸びない。宿泊施設や、バスを停車させる駐車場がないことは大きな課題である。折角、横須賀に来て、数時間滞在して帰ってしまう。軍港めぐりにしても近くに停車するところがない。地理的な問題もあるが、市外の人を呼ぶ努力がまだまだ足りないかと思う。
- 産業まつりでは、ここ数年、にぎわいが出てきて県外からも人が来るようになった。一時の状況で判断するのではなく、長い目で見据えた取り組みや継続性も必要だと思う。
- 観光と一口に言っても、箱根の方向を向くのか横浜の方向を向くのかなどによって、在り方が変わってくるだろう。目指す方向性を明確にすべきだと思う。
- 計画立案の過程でモデル地域などを検討しているかもしれないが、観光ならこの地域のこれを目指す、農業ならこれを目指すというようにターゲットを明確にし、市民に分かるようにして、一番を目指すような施策があるとよいかもしれない。
- ヴェルニー公園に行き、軍港めぐりをして、さて次はどこに行くのか、どこでご飯を食べるのか。自然に行くところが決まるようなモデルプランというものをどこの都市でも考えている。そういうことをマスコミに流して、どこかにロケ地を設定してPRするのもよい。
- イベントが地産地消やレストランなどともっとつながるとよい。今以上にそのような工夫をしないと、相乗効果が出てこない。



## プログラム5『地域力を育む』

### 5-1 地域と住民の主体性が発揮される仕組みづくり

### 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

---

#### (1) 現在の状況に対する実感

---

- アンケート結果では、大きな動きはないものの良好な状況が保たれている理由として、「自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん」が多く挙げられている。
- 横須賀には町内会・自治会が約370団体あるが、アンケートの回答理由をみると肯定的な意見もある一方で「何もしてくれない」という否定的な意見もあり、地域差が大きいと思う。また、規模にばらつきがあり、会員が多いところで2,000人、少ないところで30人程度である。規模の差、地域差がある。
- 他市と比較して、横須賀は地域活動が活発だと思う。心強い町内会もたくさんあるが、何もしない町内会をどのようにして引き上げていくかという課題がある。
- 町内会・自治会役員の任期の基準は2年だが、1年任期の団体が1/3程ある。末端の当番をする人は半年交代などでもよいが、幹部は数年務めてもらわないと、やりたいことが何もできないし、やり方もわからないままとなってしまう。
- 色々な社会で経験を積んでいる人、或いは卒業した人など、人材はたくさんいるので、隠れている人をどうやって地域に引っ張り込むかが重要になる。現職に就きながらも活動ができないことはない。
- 女性の会長は少ないが、幹部職員は結構いる。福祉や文化、環境は女性が中心でもあり、壮年層にもう少し引っ張ってもらえるとよい。
- 30、40歳代はなかなか参加してもらえない。以前より高齢化しているのは事実である。
- 子どもが大きくなると、自分の身の回りのことや別のところで忙しく、なかなか参加できないのではないかと。高齢層が元気なので頼ってしまっている面もあるように感じる。

- 若い人を地域活動に引き込みたい。小さい頃は地域に参加していても、中学、高校、大学生になると離れていく。社会人になるとまた関わってくれることもあるが、どうしても高校、大学生は地域活動に参加してもらえない。何かお願いすれば、そのことは一生懸命やってくれるが、通常の活動はなかなか難しいのが現状である。
- 地域運営協議会は、町内会だけでなく社会福祉や観光やPTAなどを地域で抱え込んで協議しようとする団体なので、これからよい効果が出てくるのかなと思う。もっと活発になると地域も活性化されると思う。
- アンケートの回答理由のどこをみても「子ども見守り隊」が挙げられている。高齢の方が多いが、お孫さんが学校にいる訳ではなく、自分の地域の子どもたちだからという姿勢で、子どもたちの登下校を見守ってくださったり学区内を巡回してくださったりしている。本当に感謝の思いでいっぱいである。

表5－I プログラム5「地域力を育む」の取り組みの方向性の状況

【現在について】

| 取り組みの方向性                           | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)           |                |                        |               |       |          |
|------------------------------------|------|-------|------------------|----------------|------------------------|---------------|-------|----------|
|                                    |      |       | ①思う+②やや思う<br>(a) | ③どちらとも<br>いえない | ④あまり思わない+<br>⑤思わない (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| (5-1)<br>地域と住民の主体性が発揮される<br>枠組みづくり | 25年度 | 578   | 41.9             | 30.1           | 28.0                   | 13.9          | 3.8   | 3.6      |
|                                    | 24年度 | 597   | 39.9             | 30.3           | 29.8                   | 10.1          | ▲ 0.2 |          |
|                                    | 23年度 | 599   | 40.8             | 28.7           | 30.5                   | 10.3          | —     |          |
| (5-2)<br>地域を支えるコミュニティ機能の<br>強化     | 25年度 | 591   | 44.0             | 28.9           | 27.1                   | 16.9          | 9.8   | 3.3      |
|                                    | 24年度 | 625   | 39.8             | 27.5           | 32.7                   | 7.1           | ▲ 6.5 |          |
|                                    | 23年度 | 630   | 42.0             | 29.5           | 28.4                   | 13.6          | —     |          |

【以前との比較】

【以前の比較】

| 取り組みの方向性                           | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                               |              |                                      |               |       |          |
|------------------------------------|------|-------|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|-------|----------|
|                                    |      |       | ①よくなっている＋<br>②どちらかという<br>よくなっている (a) | ③変わって<br>いない | ④どちらかという<br>悪くなっている＋<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比  | 25-23年度比 |
| (5-1)<br>地域と住民の主体性が発揮される<br>枠組みづくり | 25年度 | 502   | 38.0                                 | 52.6         | 9.4                                  | 28.6          | ▲ 0.6 | ▲ 1.6    |
|                                    | 24年度 | 514   | 38.7                                 | 51.8         | 9.5                                  | 29.2          | ▲ 1.0 |          |
|                                    | 23年度 | 516   | 39.1                                 | 51.9         | 8.9                                  | 30.2          | —     |          |
| (5-2)<br>地域を支えるコミュニティ機能の<br>強化     | 25年度 | 498   | 41.4                                 | 47.8         | 10.8                                 | 30.6          | 2.1   | 6.4      |
|                                    | 24年度 | 532   | 39.8                                 | 48.9         | 11.3                                 | 28.5          | 4.3   |          |
|                                    | 23年度 | 536   | 36.2                                 | 51.9         | 12.0                                 | 24.2          | —     |          |

表5－Ⅱ「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」の地域別状況

【現在について】

| 居住地域    | 調査年度 | 件数(人) | ①思う＋②やや思う<br>(a) | ③どちらともいえない | ④あまり思わない＋<br>⑤思わない<br>(b) | DI<br>(a)－(b) | 前年度比   | (ポイント)<br>25－23年度比 |
|---------|------|-------|------------------|------------|---------------------------|---------------|--------|--------------------|
| 追浜・田浦   | 25年度 | 68    | 45.6             | 29.4       | 25.0                      | 20.6          | 17.2   | 7.9                |
|         | 24年度 | 59    | 37.3             | 28.8       | 33.9                      | 3.4           | ▲ 9.3  |                    |
|         | 23年度 | 63    | 41.3             | 30.2       | 28.6                      | 12.7          | —      |                    |
| 本庁・逸見   | 25年度 | 90    | 45.6             | 23.3       | 31.1                      | 14.5          | 7.2    | 1.0                |
|         | 24年度 | 109   | 36.7             | 33.9       | 29.4                      | 7.3           | ▲ 6.2  |                    |
|         | 23年度 | 111   | 41.4             | 30.6       | 27.9                      | 13.5          | —      |                    |
| 衣笠      | 25年度 | 83    | 32.5             | 37.3       | 30.1                      | 2.4           | 0.1    | ▲ 6.6              |
|         | 24年度 | 87    | 36.8             | 28.7       | 34.5                      | 2.3           | ▲ 6.7  |                    |
|         | 23年度 | 100   | 40.0             | 29.0       | 31.0                      | 9.0           | —      |                    |
| 大津・浦賀   | 25年度 | 132   | 41.7             | 31.8       | 26.5                      | 15.2          | ▲ 18.8 | 3.0                |
|         | 24年度 | 135   | 53.3             | 27.4       | 19.3                      | 34.0          | 21.8   |                    |
|         | 23年度 | 139   | 40.3             | 31.7       | 28.1                      | 12.2          | —      |                    |
| 久里浜・北下浦 | 25年度 | 129   | 45.0             | 25.6       | 29.5                      | 15.5          | 9.7    | 1.7                |
|         | 24年度 | 137   | 36.5             | 32.8       | 30.7                      | 5.8           | ▲ 8.0  |                    |
|         | 23年度 | 116   | 46.6             | 20.7       | 32.8                      | 13.8          | —      |                    |
| 西       | 25年度 | 62    | 40.3             | 35.5       | 24.2                      | 16.1          | 27.6   | 27.6               |
|         | 24年度 | 52    | 30.8             | 26.9       | 42.3                      | ▲ 11.5        | 0.0    |                    |
|         | 23年度 | 61    | 29.5             | 29.5       | 41.0                      | ▲ 11.5        | —      |                    |

【以前との比較】

| 居住地域    | 調査年度 | 件数(人) | ①よくなっている＋<br>②どちらかという<br>よくなっている<br>(a) | ③変わっていない | ④どちらかという<br>悪くなっている＋<br>⑤悪くなっている<br>(b) | DI<br>(a)－(b) | 前年度比   | (ポイント)<br>25－23年度比 |
|---------|------|-------|-----------------------------------------|----------|-----------------------------------------|---------------|--------|--------------------|
| 追浜・田浦   | 25年度 | 61    | 36.1                                    | 55.7     | 8.2                                     | 27.9          | ▲ 8.7  | ▲ 2.7              |
|         | 24年度 | 52    | 38.5                                    | 59.6     | 1.9                                     | 36.6          | 6.0    |                    |
|         | 23年度 | 49    | 40.8                                    | 49.0     | 10.2                                    | 30.6          | —      |                    |
| 本庁・逸見   | 25年度 | 74    | 43.2                                    | 47.3     | 9.5                                     | 33.7          | 10.1   | 2.1                |
|         | 24年度 | 93    | 34.4                                    | 54.8     | 10.8                                    | 23.6          | ▲ 8.0  |                    |
|         | 23年度 | 95    | 37.9                                    | 55.8     | 6.3                                     | 31.6          | —      |                    |
| 衣笠      | 25年度 | 71    | 26.8                                    | 57.7     | 15.5                                    | 11.3          | ▲ 13.0 | ▲ 12.9             |
|         | 24年度 | 78    | 39.7                                    | 44.9     | 15.4                                    | 24.3          | 0.1    |                    |
|         | 23年度 | 91    | 36.3                                    | 51.6     | 12.1                                    | 24.2          | —      |                    |
| 大津・浦賀   | 25年度 | 119   | 43.7                                    | 49.6     | 6.7                                     | 37.0          | ▲ 3.5  | 1.0                |
|         | 24年度 | 116   | 47.4                                    | 45.7     | 6.9                                     | 40.5          | 4.5    |                    |
|         | 23年度 | 125   | 44.0                                    | 48.0     | 8.0                                     | 36.0          | —      |                    |
| 久里浜・北下浦 | 25年度 | 111   | 34.2                                    | 56.8     | 9.0                                     | 25.2          | ▲ 6.1  | ▲ 8.5              |
|         | 24年度 | 112   | 40.2                                    | 50.9     | 8.9                                     | 31.3          | ▲ 2.4  |                    |
|         | 23年度 | 98    | 39.8                                    | 54.1     | 6.1                                     | 33.7          | —      |                    |
| 西       | 25年度 | 54    | 40.7                                    | 53.7     | 5.6                                     | 35.1          | 24.9   | 17.3               |
|         | 24年度 | 49    | 24.5                                    | 61.2     | 14.3                                    | 10.2          | ▲ 7.6  |                    |
|         | 23年度 | 51    | 33.4                                    | 51.0     | 15.6                                    | 17.8          | —      |                    |

表5－Ⅲ「地域を支えるコミュニティ機能の強化」の年齢別状況

| 【現在について】 |      |       |                                       |            |                                       |               |        |          |
|----------|------|-------|---------------------------------------|------------|---------------------------------------|---------------|--------|----------|
| 年齢階層     | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                                |            |                                       |               |        |          |
|          |      |       | ①思う＋②やや思う<br>(a)                      | ③どちらともいえない | ④あまり思わない＋<br>⑤思わない<br>(b)             | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |
| 29歳以下    | 25年度 | 56    | 42.9                                  | 28.6       | 28.6                                  | 14.3          | 12.8   | 2.8      |
|          | 24年度 | 66    | 37.9                                  | 25.8       | 36.4                                  | 1.5           | ▲ 10.0 |          |
|          | 23年度 | 70    | 42.9                                  | 25.7       | 31.4                                  | 11.5          | —      |          |
| 30歳代     | 25年度 | 66    | 43.9                                  | 36.4       | 19.7                                  | 24.2          | 40.6   | 19.2     |
|          | 24年度 | 67    | 25.4                                  | 32.8       | 41.8                                  | ▲ 16.4        | ▲ 21.4 |          |
|          | 23年度 | 81    | 40.8                                  | 23.5       | 35.8                                  | 5.0           | —      |          |
| 40歳代     | 25年度 | 84    | 39.3                                  | 28.6       | 32.1                                  | 7.2           | ▲ 3.0  | 2.0      |
|          | 24年度 | 98    | 40.8                                  | 28.6       | 30.6                                  | 10.2          | 5.0    |          |
|          | 23年度 | 98    | 37.8                                  | 29.6       | 32.6                                  | 5.2           | —      |          |
| 50歳代     | 25年度 | 104   | 36.5                                  | 32.7       | 30.8                                  | 5.7           | ▲ 7.6  | ▲ 8.1    |
|          | 24年度 | 113   | 40.7                                  | 31.9       | 27.4                                  | 13.3          | ▲ 0.5  |          |
|          | 23年度 | 116   | 40.5                                  | 32.8       | 26.7                                  | 13.8          | —      |          |
| 60歳代     | 25年度 | 149   | 43.6                                  | 25.5       | 30.9                                  | 12.7          | ▲ 1.3  | ▲ 9.1    |
|          | 24年度 | 136   | 41.2                                  | 31.6       | 27.2                                  | 14.0          | ▲ 7.8  |          |
|          | 23年度 | 128   | 44.5                                  | 32.8       | 22.7                                  | 21.8          | —      |          |
| 70歳以上    | 25年度 | 119   | 52.9                                  | 26.9       | 20.2                                  | 32.7          | 22.4   | 13.9     |
|          | 24年度 | 126   | 46.8                                  | 16.7       | 36.5                                  | 10.3          | ▲ 8.5  |          |
|          | 23年度 | 127   | 44.8                                  | 29.1       | 26.0                                  | 18.8          | —      |          |
| 【以前との比較】 |      |       |                                       |            |                                       |               |        |          |
| 年齢階層     | 調査年度 | 件数(人) | (ポイント)                                |            |                                       |               |        |          |
|          |      |       | ①よくなっている＋<br>②どちらかという＋<br>よくなっている (a) | ③変わっていない   | ④どちらかという＋<br>悪くなっている＋<br>⑤悪くなっている (b) | DI<br>(a)-(b) | 前年度比   | 25-23年度比 |
| 29歳以下    | 25年度 | 38    | 39.5                                  | 34.2       | 26.3                                  | 13.2          | ▲ 7.2  | 1.9      |
|          | 24年度 | 44    | 31.8                                  | 56.8       | 11.4                                  | 20.4          | 9.1    |          |
|          | 23年度 | 44    | 29.5                                  | 52.3       | 18.2                                  | 11.3          | —      |          |
| 30歳代     | 25年度 | 47    | 36.2                                  | 55.3       | 8.5                                   | 27.7          | 25.6   | 12.3     |
|          | 24年度 | 47    | 25.5                                  | 51.1       | 23.4                                  | 2.1           | ▲ 13.3 |          |
|          | 23年度 | 65    | 32.3                                  | 50.8       | 16.9                                  | 15.4          | —      |          |
| 40歳代     | 25年度 | 66    | 27.3                                  | 60.6       | 12.1                                  | 15.2          | ▲ 2.7  | 0.4      |
|          | 24年度 | 78    | 34.6                                  | 48.7       | 16.7                                  | 17.9          | 3.1    |          |
|          | 23年度 | 81    | 28.4                                  | 58.0       | 13.6                                  | 14.8          | —      |          |
| 50歳代     | 25年度 | 91    | 29.7                                  | 60.4       | 9.9                                   | 19.8          | ▲ 15.2 | 5.9      |
|          | 24年度 | 100   | 43.0                                  | 49.0       | 8.0                                   | 35.0          | 21.1   |          |
|          | 23年度 | 101   | 26.8                                  | 60.4       | 12.9                                  | 13.9          | —      |          |
| 60歳代     | 25年度 | 134   | 47.8                                  | 44.0       | 8.2                                   | 39.6          | 4.2    | 10.3     |
|          | 24年度 | 127   | 41.7                                  | 52.0       | 6.3                                   | 35.4          | 6.1    |          |
|          | 23年度 | 123   | 41.5                                  | 46.3       | 12.2                                  | 29.3          | —      |          |
| 70歳以上    | 25年度 | 111   | 53.2                                  | 38.7       | 8.1                                   | 45.1          | 10.1   | 0.7      |
|          | 24年度 | 120   | 46.7                                  | 41.7       | 11.7                                  | 35.0          | ▲ 9.4  |          |
|          | 23年度 | 115   | 49.6                                  | 45.2       | 5.2                                   | 44.4          | —      |          |

---

## (2) 今後の取り組みの方向性に対する意見など

---

- 人が、地域に関わろうと思ったり、ネットワークをつくろうと思ったりする原動力は使命と評価だと思う。町内会でも、自分に割り当てられた役割があり、それで喜べると長続きする。同じ役割を共有している人同士はネットワークも強くなると思う。
- 女性が町内会や地域で活躍しているのは、子育て支援と高齢者のお世話がが多いと思う。「いきいきサロン」という取り組みを町内会福祉部会が行っていて、高齢者が多く後継者が見つからない状況ではあるが、自分の親は遠方だけれど地域の方をお世話したいと思っている女性が多い。
- また、「子ども見守り隊」、子供会のサポート、もちつき大会の準備などで、子どもが喜び、母親たちにも喜ばれるとまた来年もやろうと思うのではないか。使命と喜ばれることの2点がポイントだと思う。
- 役員が頑張りすぎている点は気になる場所である。活動に関わると、関わった人が重くなるということがある。薄く皆で担えるかたちにしないと、40、50 歳代は自分が中心になることを考えると入りにくい。今、自分が入ったら、重くて動けなくなるのではないかと想像してしまうと思う。
- 高齢層は、子どもたちに声をかけたり、行政センターでの催しなどに誘ったり、子どもたちとの関わりを強く希望しているが、子どもたちと若年層との関わりが少ない。若年層は今の生活に一生懸命で、どうしたら地域の子どもたちに関わってもらえるか。地域と直結したイベントなどで参加を促せるとよい。
- 30 歳代は、子どもがいと子供会、運動会、夏祭り、もちつき大会などの町内会活動での接点がある。上手に接点をつくって、親世代を巻き込んでいくようにしないと、徐々に高齢化していくし、転入者は特に、一部の人だけが参加していて入りづらく、どうしてよいかわからないという状況になってしまうと思う。分かりやすく巻き込んでいく取り組みが非常に大事だと感じる。
- 一見、面倒なことのほうが多く見えるのかもしれないが、それだけを前面に出してしまうと、なかなか転入してきた 30 歳代は参加しないと思う。地域活動に取り組んでみたら、居心地もよく、地域の人が声をかけてくれて、防犯上も安心できるなど、意外とよいことが多いと感じるし、そのようなメリットをアピールしてもよいと思う。

- 子どもが中学生になると接点がなくなってくるので、小学生ぐらいまでの間にいかに巻き込んでいくかという仕組みが大事だと思う。マンションなどではもっと難しいと思うが、どのように巻き込めるかがポイントだと思う。
- 消防団でも、面倒なこともあるがそれ以上にやりがいがある。普段は大学で同じ世代の人としか話す機会がないが、様々な年代の方の話が聞けたり一緒に活動できたりする中で、プラスになることも多いと感じるので、それらが伝わればよいと思う。
- 自治会、町内会に加入したことがない人にとっては、団体そのものをイメージできないのではないかな。活動していく中で、実際にやってみたらよかった、充実したということは勿論あるだろうが、入って見ないと分からないことなので、活動への参加を促す前に、まず団体そのものに意識を向けさせる手立てが必要だと思う。
- 町内会などの活動は、若い人がやることではないという意識があって、母親やそれより上の世代がやってくれているとか、何か活動しているというイメージでしかないと思う。町内会のイメージ自体を変えていないと若者は見向きもしないだろう。
- 体育部会をスポーツ部会に名称変更しただけでも壮年層が入ってくるようになった。「子ども活動推進の会」を町内に組み入れて若い保護者たちを取り込んだりもしている。若返りを図るには少し目先を変えるなどの工夫が必要かもしれない。
- 地域に根付いている企業の方に入っていただくことも考えてはどうか。ビジネスの視点には、納得させられることが多いと思う。企業の方に新しい風を吹かせてもらう。新しい視点での意見を聞くだけでも変わっていくと思うし、学生はまちをつくっていくという体験が実際にできると思う。そのようなところをアピールしていくことも大事だと感じる。
- もう少しテーマがはっきりしているものとか、結果が見えるもの、成果が出るようなところでないとか若い人は取り組みにくいのかと思う。地域活動は結果が見えるまでに時間がかかるので、トレーニングが必要だろう。
- 都市計画部門では若い人の参画を促しているものがあるのではないかな。都市整備の条例や都市計画マスタープラン、景観、防災など、計画の策定や協議会などでの住民参加がある。テーマ型ではそのような取り組みが市でもあるはずで、それらに参画している人と自治会で活動している人が全く異なる場合もあるし、色々な関わり方で上手につないで取り込んでいくということもできるのではないかな。
- 市の広報でも、活動している若い人たちを紹介するなどの取り組みがあってもよいかもしれない。

- 中高生あたりの年代については、無理に引き込む必要はないのではないか。その地域にいる人は全員参加しなければいけないとなると難しい。また戻ってきてもらうということを考えた方がよいと思う。

## 『持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）』について

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

## 『重点政策・施策評価に関する意見』など

### アンケートの分析方法や評価の方法について

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

## 参考資料

### 基本計画および重点プログラムについて

#### 【基本計画】

基本計画は、市の最上位計画である総合計画の一部です。総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層で構成され、基本計画は中間に位置する計画である。計画期間は、2011年度（平成23年度）から2021年度（平成33年度）の11年間となる。



#### 【重点プログラム】

今日、多くの自治体がそうであるように、本市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面している。

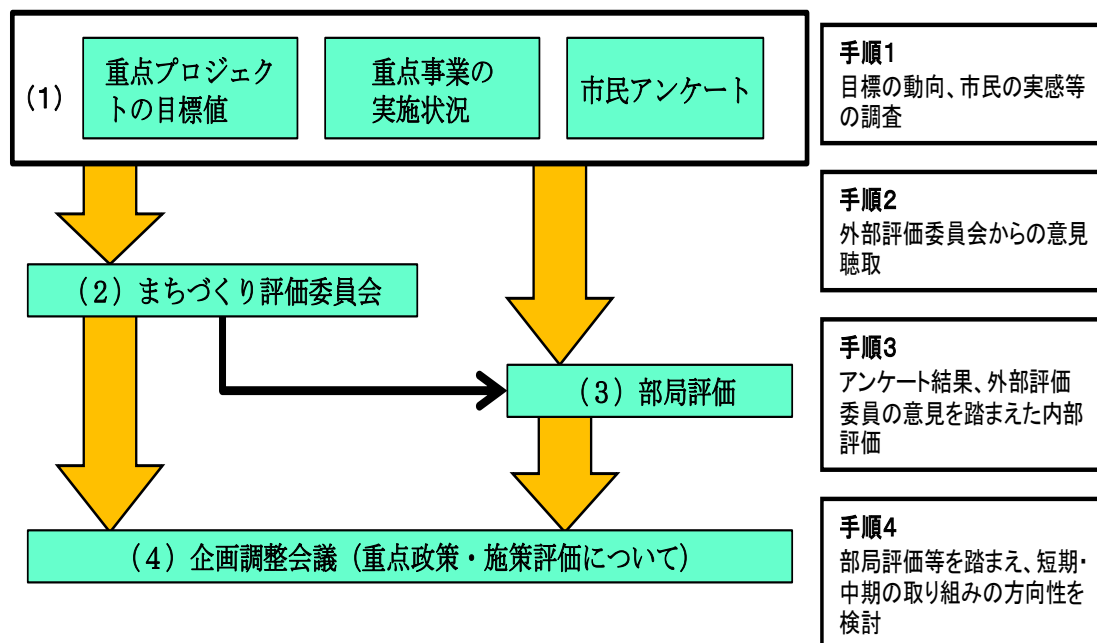
横須賀市基本計画（2011～2021）では、基本構想の都市像である「国際海の手文化都市」を目指して、全分野の政策・施策を総合的に展開していくが、同時に、この厳しい状況下で着実に成長できる『都市力（都市の魅力）』を備えるために特に重点的、優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的に「重点プログラム」を位置付けている。

「新しい芽を育むプログラム」「命を守るプログラム」「環境を守るプログラム」「にぎわいを生むプログラム」「地域力を育むプログラム」の5つのプログラムを着実に推進することで、持続可能な発展を遂げる都市の土台をつくとともに、全政策・施策の先導役として計画全体を力強くけん引する。

【図】 重点プログラムの構築イメージ



○ 重点政策・施策評価の枠組み（横須賀市まちづくり評価委員会の役割）



**横須賀市まちづくり評価委員会**

「市民アンケート結果」「重点プロジェクトの目標」「重点事業の実施状況」から、「重点プログラムが目指す都市の姿について、現状で実感しているか」「どういうところでそう思うのか・思わないのか」「アンケート結果ではこのような傾向だが、良い面がある、そうではない面もある」など、アンケートでは捉えきれない生の声や今後の取り組みの方向性などに対する意見を聴取する。

○ 横須賀市まちづくり評価委員会委員名簿

(敬称略)

| 氏 名                   |                    | 所 属 等                |
|-----------------------|--------------------|----------------------|
| 学<br>識<br>経<br>験<br>者 | ■委員長<br>細野 助博      | 中央大学大学院 公共政策研究科 教授   |
|                       | ■委員長職務代理者<br>松本 暢子 | 大妻女子大学 社会情報学部 教授     |
| 団<br>体<br>等<br>代<br>表 | 山本 信子              | 横須賀市立小学校校長会 夏島小学校長   |
|                       | 大武 勲               | 障害者施策検討連絡会 会長        |
|                       | 川名 亘子              | 横須賀市母親クラブ連絡会 顧問      |
|                       | 佐々木 忠弘             | 京浜急行電鉄株式会社 総務部広報課長補佐 |
|                       | 西原 徹               | 横須賀市連合町内会 会長         |
| 市<br>民<br>委<br>員      | 木村 武志              | 地域再生経済懇話会            |
|                       | 石坂 颯都              | 大学生                  |
|                       | 葛 綾乃               | 大学生                  |

○ 平成 25 年度 横須賀市まちづくり評価委員会会議開催状況

| 日 時                        | 内 容                                                                                                             |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 月 12 日（金）<br>15:00～17:00 | 第 1 回まちづくり評価委員会会議<br>▼ 概要説明<br>▼ プログラムごとの検討<br>・プログラム 1 「新しい芽を育むプログラム」<br>・プログラム 2 「命を守るプログラム」                  |
| 7 月 25 日（木）<br>15:00～17:00 | 第 2 回まちづくり評価委員会会議<br>▼ プログラムごとの検討<br>・プログラム 3 「環境を守るプログラム」<br>・プログラム 4 「にぎわいを生むプログラム」<br>・プログラム 5 「地域力を育むプログラム」 |
| 8 月 22 日（木）<br>15:00～17:00 | 第 3 回まちづくり評価委員会会議<br>▼ プログラムの目的について<br>▼ 意見のまとめ<br>▼ 次年度以降に向けて                                                  |

## ○ まちづくり評価委員会条例

(設置)

第1条 本市の基本計画において重点的かつ優先的に実行する取組の評価に関し、市長の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定による附属機関として、横須賀市まちづくり評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者及び関係団体の代表者のうちから市長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(その他の事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。